

事前指示書作成における当院血液透析患者の現状意思調査

医療法人社団スマイル 博愛クリニック¹⁾、クリア焼山クリニック²⁾

○藤井恵子^{1)、2)}、吉田賢治¹⁾、井出本史子¹⁾、源田倫子¹⁾、江草昌美¹⁾

沖永佳美¹⁾、迫田夕子¹⁾、杉山浩文¹⁾、大窪由美子¹⁾、桐林慶²⁾、高杉敬久¹⁾

はじめに

血液透析患者の高齢化や合併症の多様化に伴い、透析治療の現場において、患者の予期せぬ急変や透析療法の継続が困難な状況に陥る場面に多々遭遇する。

しかしながら急変時や終末期の本人の意思確認は事前把握できていないのが現状であり、外来透析治療を行っている当院の場合、家族との接点が薄いことも、この場合においての問題点となりうる可能性は大きい。

目的

今回、事前指示書作成を今後の目標に、当院血液透析患者の自身の急変時・終末期・透析見合わせについての現在の思いを知る目的で意識調査を行なった。

対象・方法

- 血液透析患者：181名
 - 平均年齢：67.7±12.4歳
 - 平均透析歴：11.4±9.8年
-
- 事前指示書に関するアンケートとして、全患者に無記名、なおかつ回答は任意として意識調査を行った。

結果

事前指示書に関するアンケート

病気や不慮の事故など、何らかの原因により意思の疎通ができなくなり、回復の見込みがないと判断されたとき、残念ながら私たち医療スタッフには患者様ご自身の意思がわかりません。

このような事態に陥ってしまった時、自分がどのような治療をしてほしいのかを意思表示できるうちに提示しておく方法のひとつに『事前指示書』とよばれるものがあります。現在の患者様の気持ちを知るため、以下の質問にお答え下さい。

- 事前指示書というものを知っていますか
知っている 聞いたことはあるがよく知らない 知らない
すでに書いてある
- もしも機会があれば事前指示書を書いてみたいと思いますか
書いてみたい 書きたくない 今はわからない
- 自身の終末期（回復不能で近い将来、死が避けられない時期）になった時のことについて家族や大切な誰かと話し合ったことがありますか
話し合ったことがある 話したことはない 考えたこともない
- 透析治療中、突然にあなたの体に命の危険が迫ったとき（急変時）、それが回復の見込みがない場合、どのような治療を望みますか
延命を望む 延命は望まない 家族の判断に任せたい
医師の判断に任せたい 今はわからない
- 不慮の事故、あるいは病気により回復不能で近い将来、死が避けられない時期となったとき、透析治療を継続することについてどのように考えますか
透析を継続してほしい 透析を中止してほしい
家族の判断に任せたい 医師の判断にまかせたい 今はわからない
- このアンケートにお答えいただいてどのように感じますか
気にならない 必要なこと 不快である

○アンケート回収率

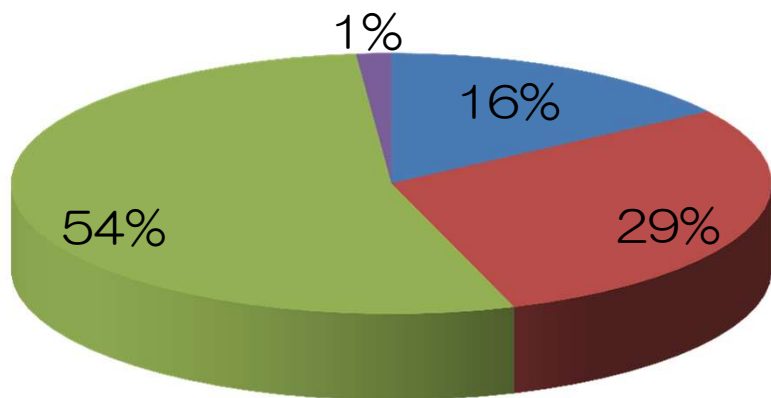
135/181人 75%

○6つの質問の集計

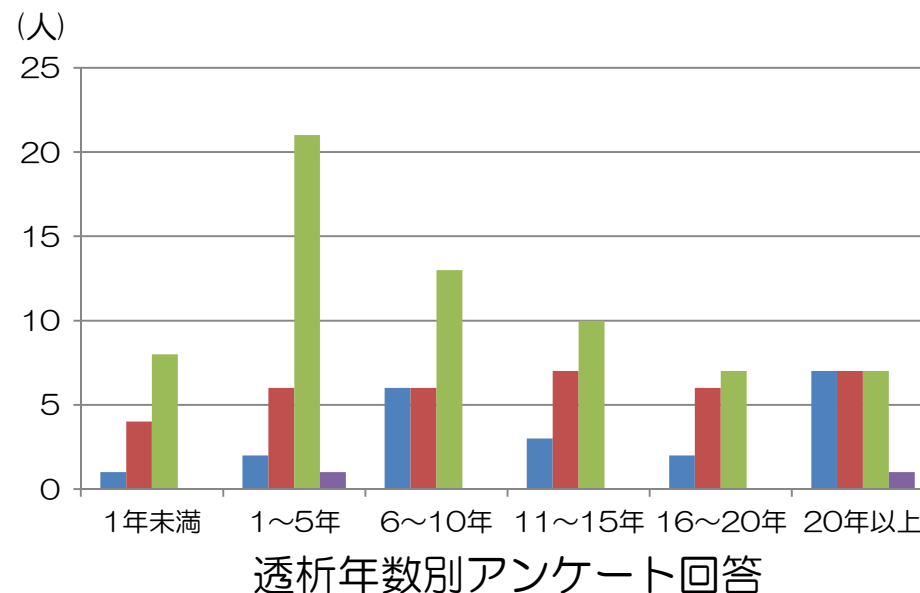
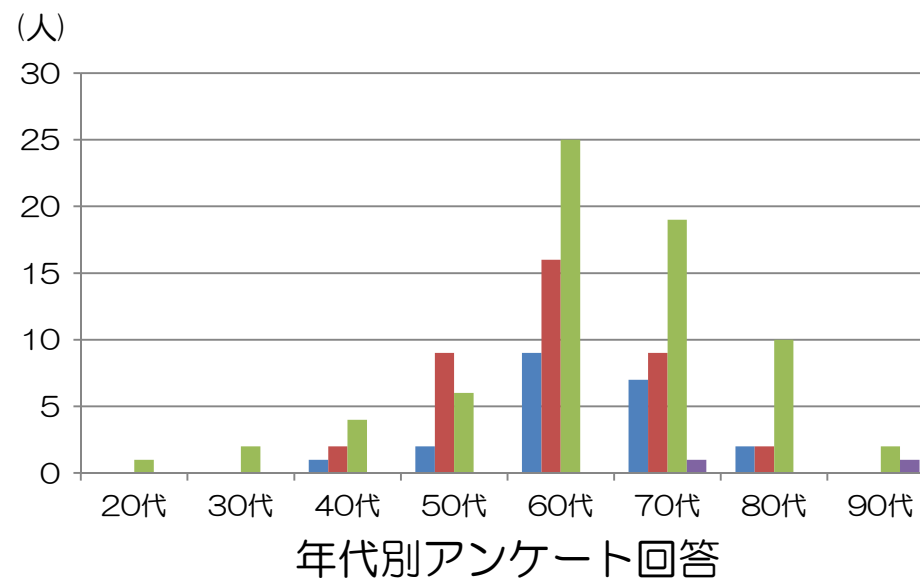
円グラフ：全体の割合
棒グラフ：年齢別
透析年数別

1.事前指示書を知っていますか

- 知っている
- 聞いたことはあるがよく知らない
- 知らない
- すでに書いてある

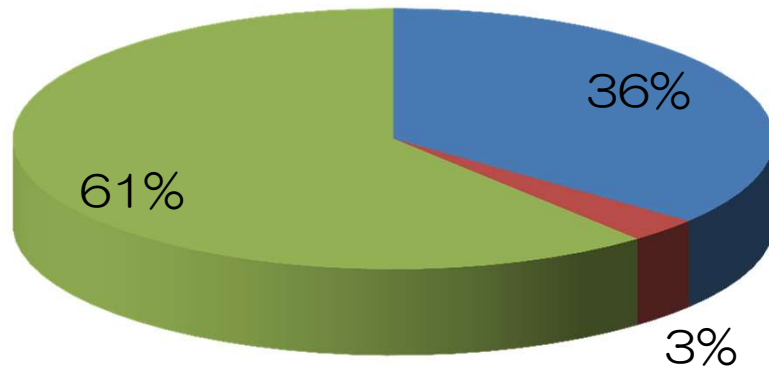


全体の16%の患者が**知っている**と回答し、半数の患者が**知らない**と回答している。**すでに書いてある**と回答した患者が1%存在した。

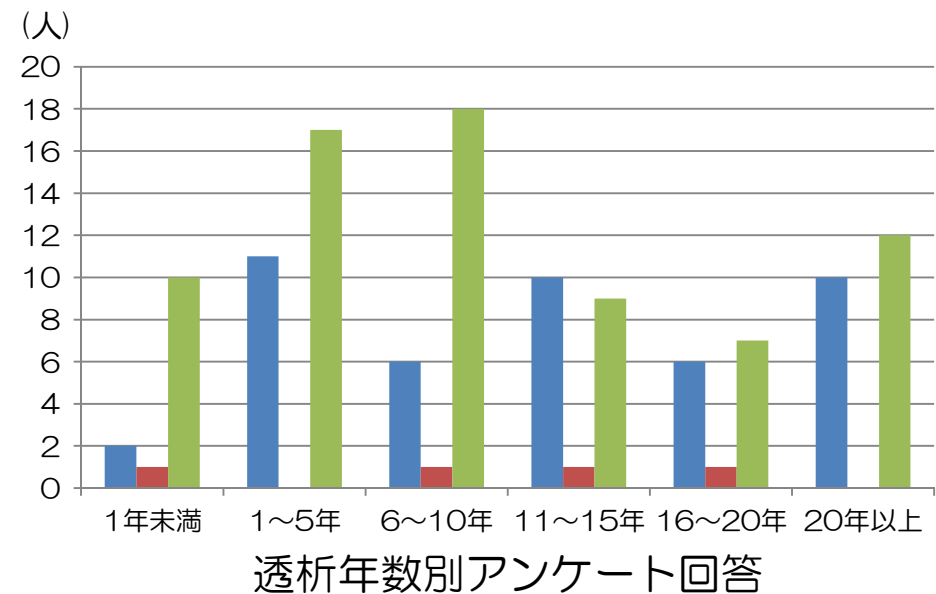
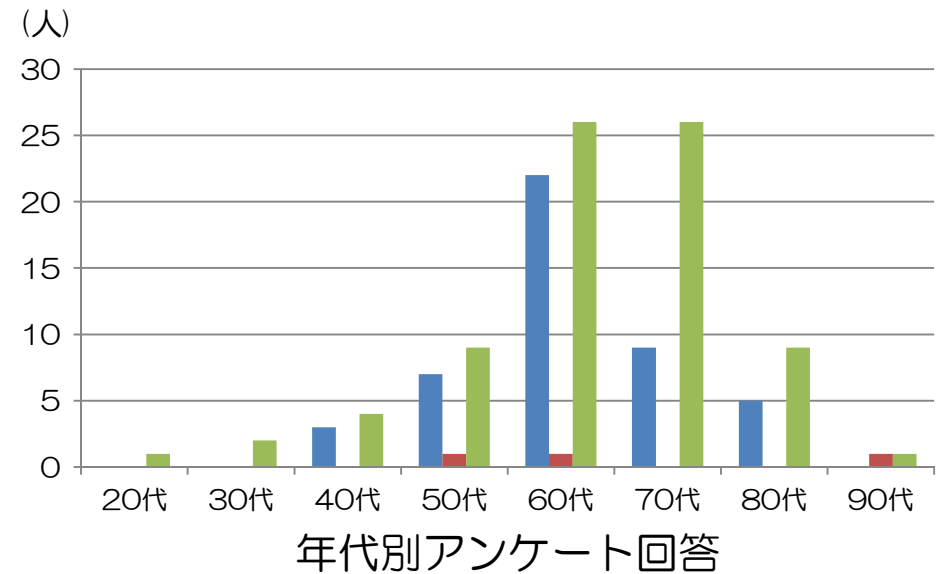


2.もしも機会があれば事前指示書を書いてみたいと思いますか

- 書いてみたい
- 書きたくない
- 今はわからない

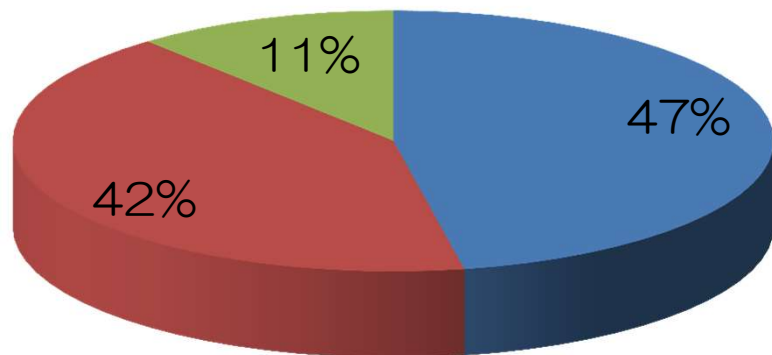


36%が書いてみたいと回答しているが、約6割の患者は今はわからないとしている。

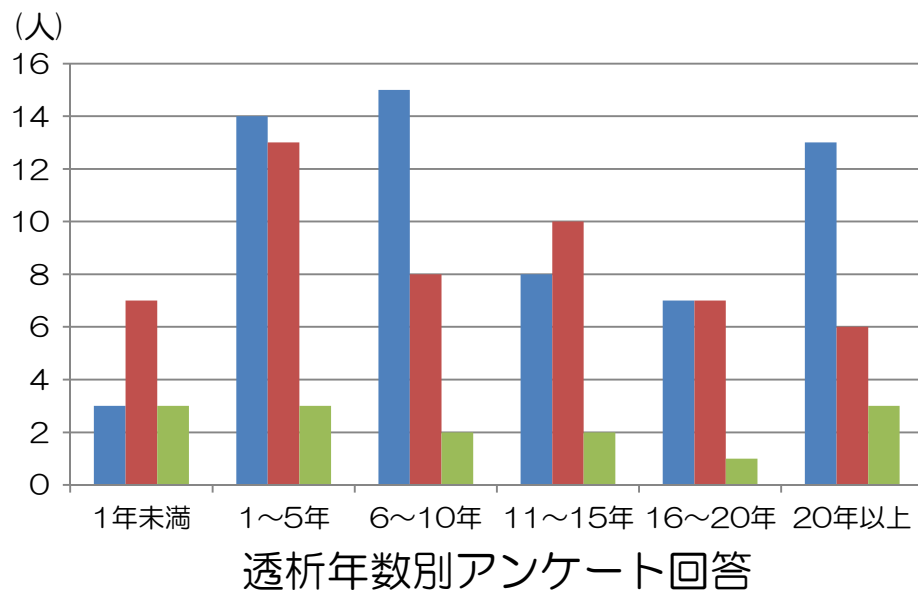
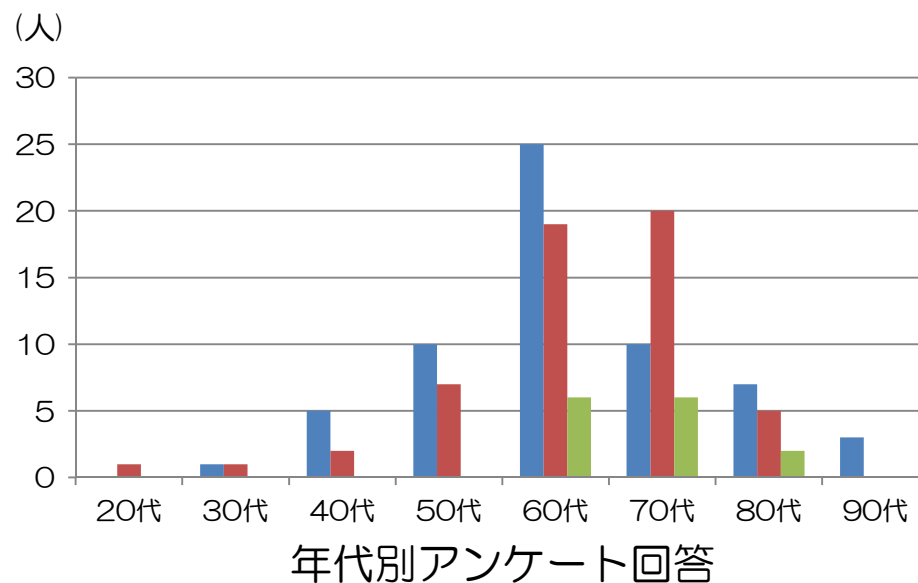


3.自身の終末期(回復不能で近い将来、死が避けられない時期)になった時のことについて家族や大切な誰かと話し合ったことはありますか

- 話し合ったことがある
- 話したことはない
- 考えたこともない

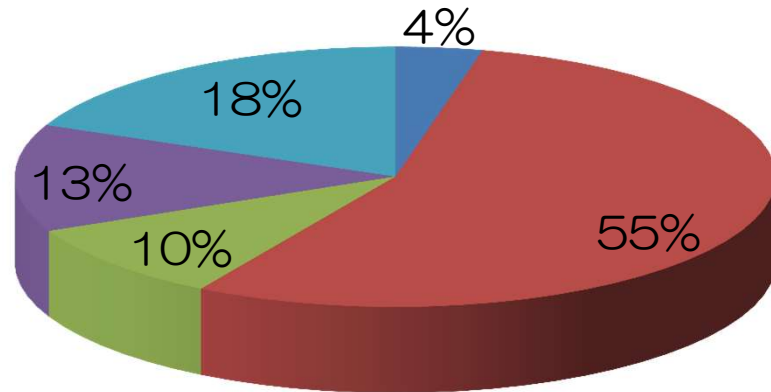


4割強の患者がそれぞれ話し合ったことがある、ないと回答し、考えたこともないという患者が1割であった。

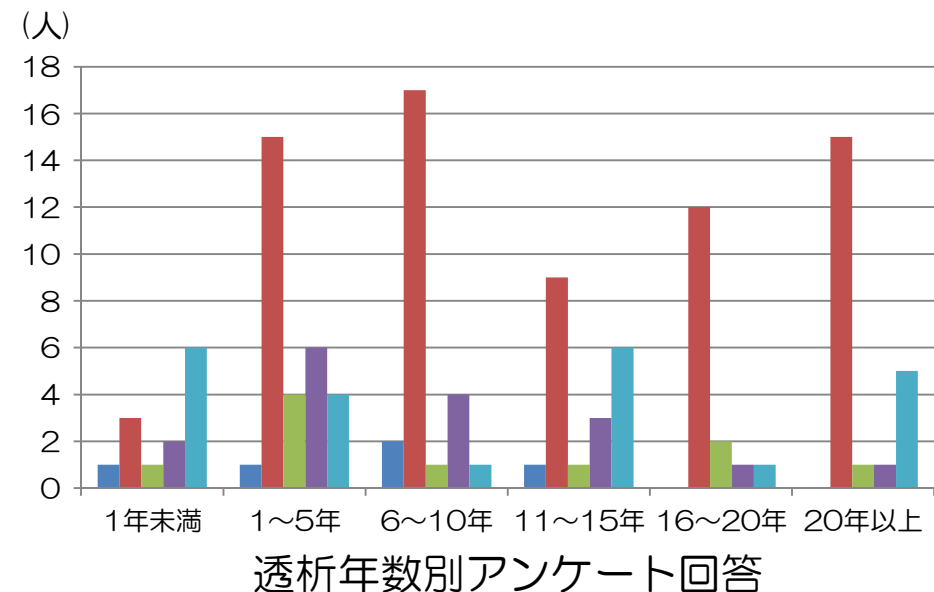
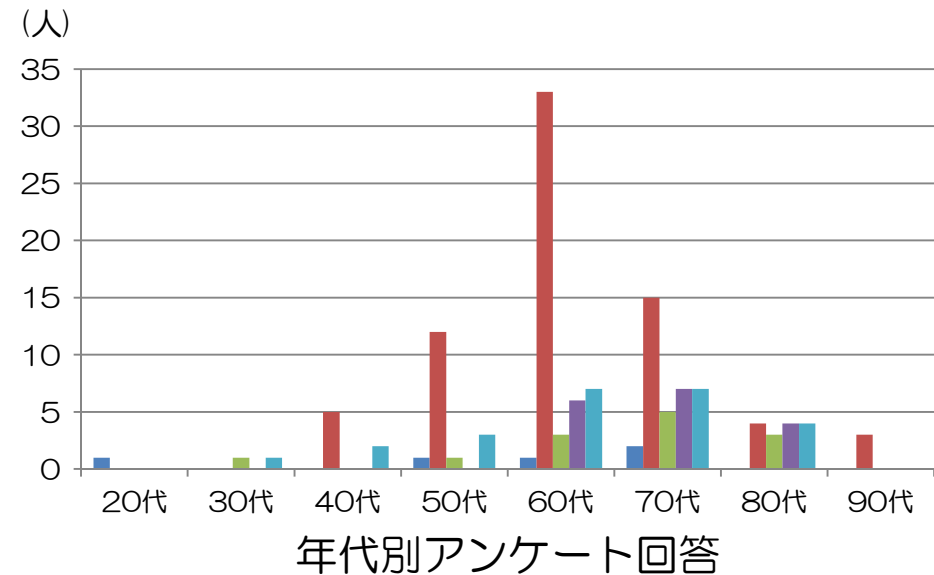


4.透析治療中、突然にあなたの体に命の危険が迫ったとき(急変時) それが回復の見込みがない場合、どのような治療を望みますか

- 延命を望む
- 延命は望まない
- 家族の判断に任せたい
- 医師の判断に任せたい
- 今はわからない

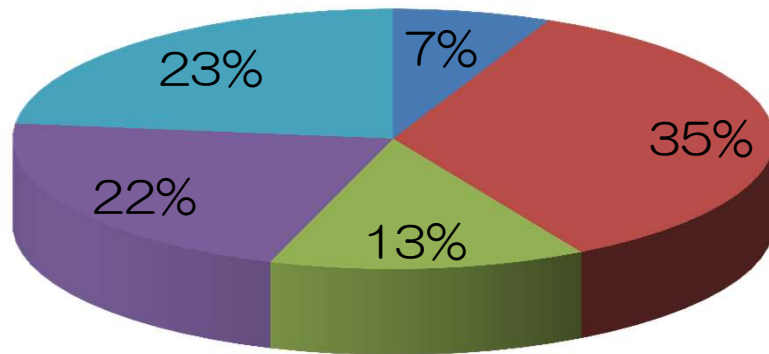


延命は望まないという患者が
全体の約半数を占めていた。

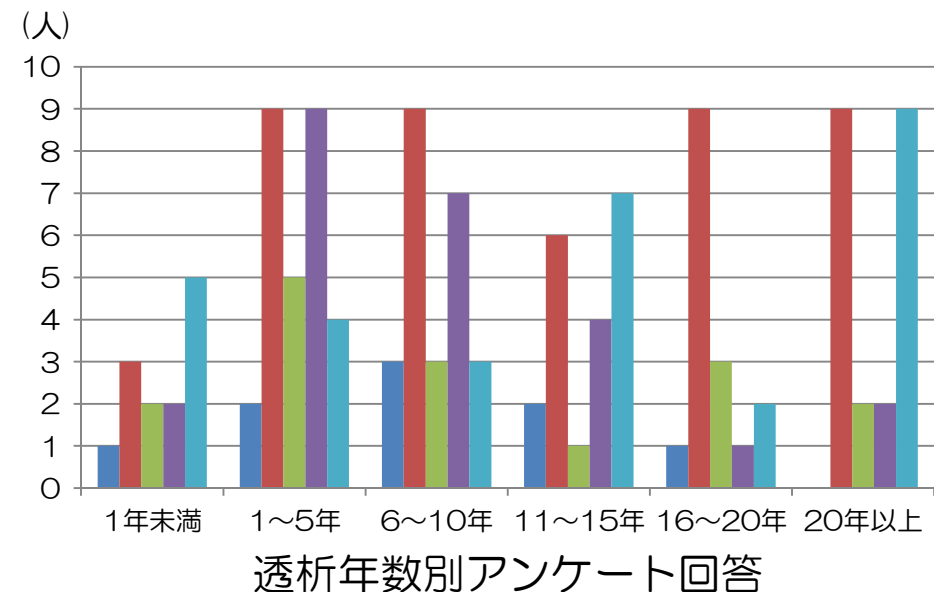
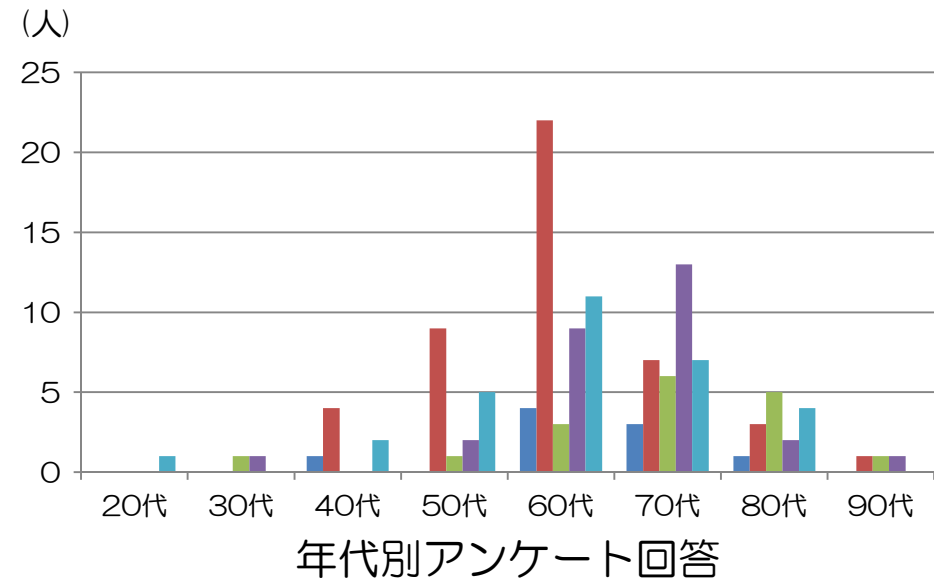


5.不慮の事故、あるいは病気により回復不能で近い将来、死が避けられない時期となった時、透析治療を継続することについてどのように考えますか

- 透析を継続して欲しい
- 透析を中止して欲しい
- 家族の判断に任せたい
- 医師の判断に任せたい
- 今はわからない

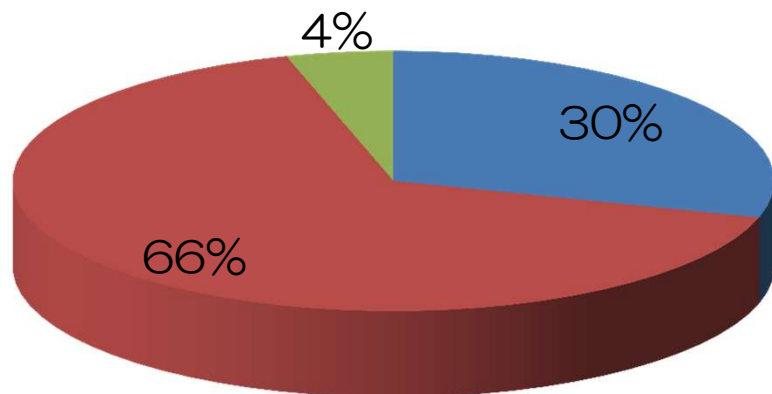


透析継続を望む患者が7%
透析中止を望む患者が35%
であった。

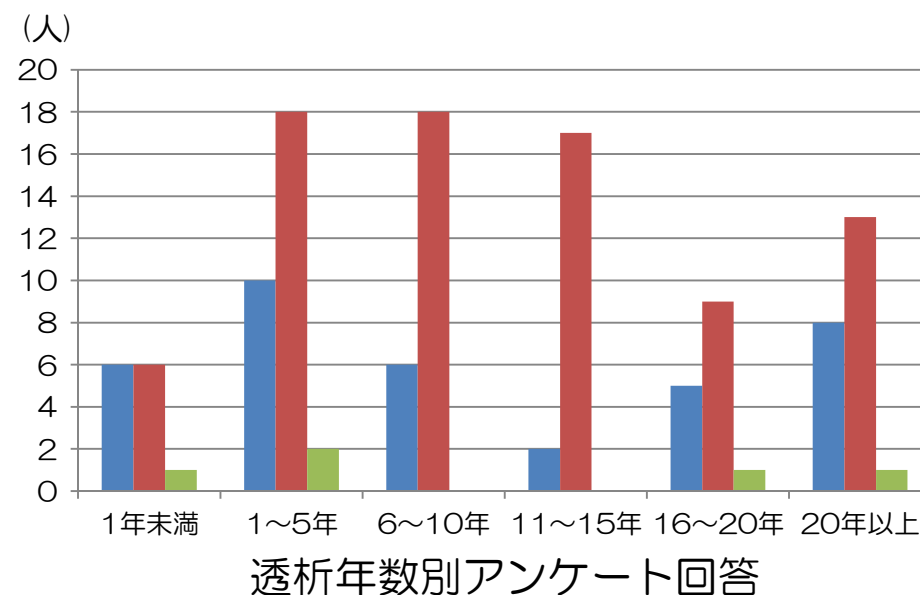
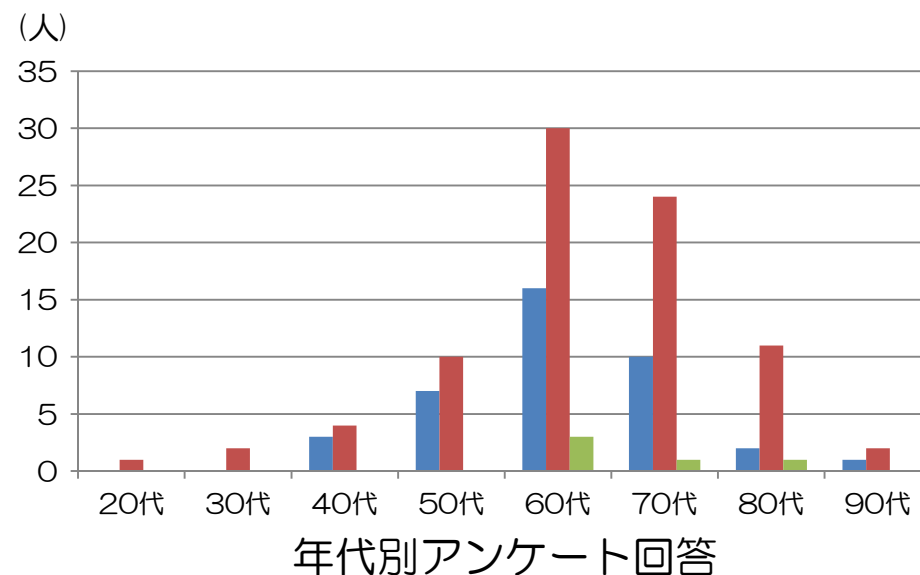


6.このアンケートにお答えいただいてどのように感じますか

- 気にならない
- 必要なことである
- 不快である



事前指示書についてのアンケートが**必要なことである**と回答した患者が66%であったが、**不快である**と回答した患者も4%存在した。



考察

日本透析医学会より『維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言』が公表された現在、終末期医療への関心は益々高まっている。



事前指示書は『必要である』とした意見もあったが、『不快である』『今はわからない』という回答を多く得たことも事実と受け止め、患者本人の意思をより反映した終末期医療の体制を考えることが我々の課題であると感じた。

結語

終末期医療に関し、医療者先行でなく患者の思いをより反映した『事前指示書』の作成・運用が重要である。